

あなたの街にも「地域共生」の取り組みを！VOL.1

～ 臼杵市 “たんぽぽの会” をご紹介します～



到着したJR上臼杵駅には2,500羽の折り鶴が揺れていました。この折り鶴を制作したのは、ひきこもりや生活困窮者、障がいや認知症の方やそのご家族等、様々な方が気軽にかけられる「居場所」づくりに取り組んでいる団体「たんぽぽの会」。折り鶴は全20色で折られ、東京オリンピックやLGBTQ(性的少数者)への理解、新型コロナの終息など、様々な思いが込められています。

たんぽぽの会は、熱い思いをもった住民の皆さんと、臼杵市社会福祉協議会との協働の取り組み。毎週火曜日、定例で上臼杵駅に集まります。

駅舎を管理する住民組織「南部地区振興協議会」の協力も得て、駅舎内に設けたテーブルと椅子で、みんなで楽しくおしゃべりをしながらの作業です。日頃は、駅を利用する学生さんや臼杵石仏を見に来た外国人など、様々な方とのふれあいがあり、垣根のない開かれた場所だからこそ、誰もが気軽に交流できます。

この日は、スタッフやボランティアも含めて8名が折り鶴に糸を通してながら近況を話していました。

「家から出るきっかけづくりをしたかったんです。障がい者の就労支援や、高齢者の介護保険では届かない部分、“狭間”にいる方々や家族に対する支援の1つとして、誰でも来たい時に来られる場所を作ったかった。」こう話すのは、代表の麻生恵子さん。「ここに来て、みんなと交流し話しをするようになって、変わる方が本当に多い。ずっと家から出られなかった方がすごく長かった髪を突然バツサリ切って来たこともあります。お菓子をつくってみんなにふるまってくれた方もいました。たった半年で、卒業して仕事についての方もいます。

このメンバーが市内のあちこちに「ポツポツ」と飛んでいって、さらに色々な方を巻き込んでいきたい。そんな願いを「たんぽぽの会」の名前に込めているんです。」

小さな種が、あちらこちらに大輪の笑顔を咲かせる日も近いことでしょう！



「参加者の声」

家にいたら誰とも話さないでしょ？ 笑うこともない。ここに来るとほんっとに楽しい！ 生きがいです。



「ボランティアスタッフの声」

楽しいよって言われて、何をやるのかもわからずについてきたのが始まりですね。ここで元気をもらってる。だからやめられんわね！



「代表 麻生さん」

2年前から活動を始め、「内職作業募集」のチラシを片手に、地元企業を一軒一軒まわりました。その甲斐あって、最近では、カボスやトマトなどの野菜の選別や袋詰め、シール貼りや、商品の検品作業など、少しずつ色々な注文が来るようになってきました。まだまだ色々な企業の方に知っていただいて、軽作業をいただきたいです。ご連絡をいただければ、詳しいお話をさせていただきます！



【軽作業をご依頼したい方は、まずは大分県社会福祉協議会地域福祉部(097-558-0305)までお電話ください】